この学校では、こんな学びが始まる

福祉DXで人を支え、地域の未来をつくる担い手へ

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

沖縄県立真和志（まわし）高等学校

全日制／普通科・福祉科

類型1

この改革が必要な背景

- 沖縄県では、**介護・福祉人材の確保が課題**となる一方で、県内唯一の「介護福祉士」養成高校である真和志高校みらい福祉科では、定員を十分に満たせていない状況
- 「介護＝きつい仕事」というイメージや、福祉DX・ICT教育の不足により、学科の魅力や将来性が十分に伝わっておらず、**福祉を起点に多様な産業や地域課題の解決につながる新たな学びへの転換が急務**

事業概要（学びの変化）

福祉工学で学ぶ、これからの課題解決

- ✓ ①認知症ケアVR、②介護ロボット、③福祉ICT（記録の電子化・データ分析）、④3Dプリンタによる福祉用具製作の4領域を学ぶカリキュラムにより最先端の「福祉工学」を学ぶ
- ✓ 1年次（基礎介護技術）→2年次（DX福祉機器を活用した実習と認知症ケアの高度化）→3年次（地域課題解決型の福祉探究プロジェクト）という体系的な学びを構築
- ✓ 大学教員や福祉工学・福祉DXエキスパートとともに、地域や社会の課題の解決に挑戦

総合学科※みらいデザインコース　福祉マインドで新しい価値を創る

- ✓ みらい福祉科の生徒と共に学びながら、多様な人々の視点から地域課題を発見
- ✓ 経営者協会や県観光振興課等と連携し、「福祉マインド×観光」の視点から、高付加価値な体験を設計・提供できる人材を育成
- ✓ 福祉機器メーカーや自動車・機械・電気関連企業等と連携し、「福祉マインド×ものづくり」の視点から、高齢者・障害者向け製品の開発に貢献できる人材を育成

※令和９年度から普通科を総合学科に改編予定

みらい福祉科　福祉DXで人を支える専門職へ

- ✓ 介護福祉士国家資格の取得を目指しながら、専門的な介護技術と福祉DXを学ぶ
- ✓ 福祉施設や医療機関での実習を通して、現場で求められる実践力を身に付ける
- ✓ 大学や福祉・医療系専門学校と連携し、高度専門職への進学や高大連携の通信授業による単位認定を行う



「自分を知る」から始まる6つのステップ！　地域福祉課題に挑む探究の旅

- ✓ 「自分を知る→社会と出会う→課題を発見する→解決策をつくる→実践・実証する→社会に価値を生み出す」の６段階で学ぶ「真和志モデル」を全学科で実践
- ✓ 地域の福祉や暮らしの課題をテーマに、課題解決型学習（PBL）に取り組む
- ✓ 利用者や地域住民との交流を通して、学びを実社会につなげる

＜生徒の１日の流れ（例）※みらい福祉科２年Aさん＞

【9:30】
「生活支援技術」において、利用者一人ひとりに寄り添った介護技術を学ぶ



【13:30】
「介護総合演習」において、介護現場で求められる知識や実践力を身に付ける

【14:30】
「福祉DX実践」において、介護ロボットや福祉ICTを活用した課題解決に挑戦する

【15:30】
「地域課題解決PBL」において、地域の福祉課題をテーマに探究活動に取り組む

高校生の未来の姿（指標の例）

- 介護福祉士国家試験合格率　（現状）86% ⇒ （R10）90% ⇒ （R13）95%
- 福祉分野への就職率　（県内就職率）　（現状）57% ⇒ （R10）65% ⇒ （R13）75%



他校への普及方策

認知症ケアVRや介護ロボットを活用した新しい福祉の学びを県内高校へ広げる　等

主な連携機関

沖縄大学、琉球リハビリテーション学院、全国介護事業者連盟沖縄県支部、沖縄県社会福祉協議会 等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成